重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	学校で、子どもが自由に興味あるものにチャレンジできる。	
施策名	子どもが自由に興味あるものにチャレンジできる学校をつくる	No.35

年度	平成28年度
責任部長	教育文化部長
主担当課長	学校教育課長
関係課	教育総務課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
学校で自由に興味のあるものにチャレンジできていると思う子どもの割合（%）	↗	65.2	68.1	70.8	64.9	67.7	66.4	71.0
		66.4	72.0	68.3	69.2	69.1		75.8
子どもが学校で自由に興味あるものにチャレンジできていると思う保護者の割合（%）	↗	56.2	63.2	59.8	63.0	67.6	63.8	63.0
		63.8	67.6	65.1	68.5	68.9		69.8

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

子どもたちが国際化、高度情報化社会に対応でき、環境保全に主体的に取り組む態度や能力を身につけるとともに、自らの生き方を考え主体的に進路を選択する態度や能力を身につけていくことは大切である。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

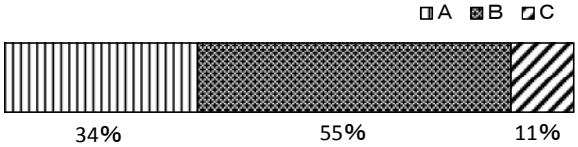
現状評価	A 改善傾向	「学校で自由に興味のあるものにチャレンジできていると思う子どもの割合」「子どもが学校で自由に興味あるものにチャレンジできていると思う保護者の割合」ともに、年度毎の多少の増減はあるものの、全体的には堅調に推移している。いずれの数値もめざすべき姿に向け、改善傾向にあるといえる。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

市民からみた計画の進捗状況

・A判定（改善傾向）　34 %
・B判定（停滞）　55 %
・C判定（悪化傾向）　11 %